

「SEND プログラム 2015 年シドニー大学スプリングスクールプログラム参加報告書」

京都大学総合人間学部 3 年 坂根衣璃子

今回の SEND プログラムシドニー大学スプリングスクールプログラムでの授業や現地学生との交流、また学生寮での共同生活などを通して、国際的な理解を深めること、仲間と協力すること、また自身の進路について再考することの機会が得られた。

最初に、今回のプログラムでの授業の多くが、異文化間のコミュニケーションと相互理解をテーマにしたものであり、英語の授業での読解からスラングまでの幅広い言語習得は言うまでもなく、異文化間でコミュニケーションが行われるときにどういったものが円滑なコミュニケーションの障壁となるのかについての講義において、言語的なスキルそのものだけではなく、各々の持っている文化的背景がいかに大きな影響を与えているのかについての考察は、これから様々な国の人と関わっていく機会が増えていく中で、より良いコミュニケーションのために、しっかりと配慮していかなければならない事象として私の中に強く残った。また、現地の学生との交流を通して、自分たちが普段見ているものとは違う「日本」というものも垣間見ることができたように思う。それは現地の大学での日本語の授業に参加させていただいたとき、議題が日本の「フリーター」についてであり、ほかの国の人たちにはどのように映るのかというのが非常に興味深い点であった。

次に、この2週間の研修期間、仲間たちと大学生活や寮生活など慣れない環境の中で多くの時間をともに過ごしたことで、当初はほとんど初対面だったにもかかわらず、互いに理解を深め合うことができたと感じている。プログラムの授業やアクティビティ中はもちろんのこと、放課後や週末のシドニー市内やブルーマウンテンの観光を通して、より濃密な時間を共有することができた。様々な専攻や学年の人がおり、普段は日本でもあまり接点がないような人とも多く関わることができ、お互いに刺激を与えられたように感じている。また、日常生活において、食料を共同で購入したり、洗濯機をみんなで回したりするといった経験は、外国での共同生活の醍醐味であったと思う。

そして、今回のプログラムは自身の進路にも少なからず影響を与えていると思う。私は以前にカナダに留学した経験があるが、カナダに留学した時も、今回の留学においても、留学して様々な文化に触れるたびに、もっと自分の知らない世界の文化や情勢、歴史について知りたいと感じ、またそれまで当然だと思っていたことが世界的に見ると決して当然というわけではないということをもがまざと見せつけられると感じることがあった。そして、そのよう多様性の中で自分の興味のあることを学んでいきたいという気持ちがより強くなったように感じている。

以上のように、今回のプログラムを通して得たものは、国際的な文化交流や理解のみならず、仲間との共同生活なども通して、より自国のことについても考える良いきっかけになったと感じている。この経験を今後に残し、これからも様々な文化と触れ合い、互いの理解を高めあっていきたい。